

村上春樹《第一人稱單數》的敘述者之「記憶」： 以各短篇之間的聯繫為中心

葉菱

淡江大學日本語文學系 副教授

摘要

村上春樹的《第一人稱單數》是一部由八個短篇小說組成的小說集。以"三個短篇小說"為題發表在《文學界》上的其中三個故事，都有著"死亡"這一共同點。另一方面，同樣是《文學界》上發表，但是改為以"第一人稱單數"為題的四篇小說則是在記憶和人的內心之間有相關性。

通過定量文本分析得知「養樂多燕子詩集」在《第一人稱單數》屬於異質性的作品。「養樂多燕子詩集」出現的「村上春樹」一詞可以看成是帶給各個短篇小說「特定主題」的符號。同時也是將每個短篇小說中的複數的敘述者整合為「單數」的手段。《第一人稱單數》的「第一人稱」是超越個人傳承「記憶」的敘述者。

關鍵詞：記憶、敘述者、聯繫、第一人稱、計量文本分析

受理日期:2022年03月01日

通過日期:2022年05月13日

DOI: 10.29758/TWRYJYSB.202206_(38).0011

The Narrator's "Memory" in Haruki Murakami's "First Person Singular" : Centering on the connection between the short stories

Yeh, Ling

Associate Professor, Tamkang University

Abstract

Haruki Murakami's "First Person Singular" is a collection of eight short stories. Three of the stories were published in "Bungakukai" under the title "Three Short Stories," and the common thread of "death" stands out. On the other hand, the four stories with the title "A Series of Short Stories in the First Person Singular" share the same relationship between memory and one's inner self.

Through the quantitative text analysis, " The Yakult Swallows Poetry Collection " emerged as a heterogeneous piece in "First Person Singular. The "Haruki Murakami" specified in " The Yakult Swallows Poetry Collection " is a "specific theme" that can give coherence and connection to each short story as a symbol, and it can be considered as a device to consolidate the multiple narrators in each short story into a "singular" number. The "first person" in "First Person Singular" can be thought of as a narrator who passes on "memories" that can be handed down beyond the level of the individual.

Keywords: Memory, narrator, association, first person, metric text analysis

村上春樹『一人称単数』における語り手の「記憶」 —各短編のつながりを中心に—

葉凌

淡江大学日本語文学科 准教授

要旨

村上春樹の『一人称単数』（2020年・文藝春秋）は、八つの短編を収録した短編小説集である。「三つの短い話」というタイトルで『文學界』に掲載された三編には「死」という共通項が際立っている。一方、同じく『文學界』に掲載されているが、タイトルは「連作短編「一人称単数」」となった四篇において記憶と自分の内面との関係性が共通している。

計量テキスト分析を通して、「ヤクルト・スワローズ詩集」は『一人称単数』において異質の一編として浮上してきた。「ヤクルト・スワローズ詩集」で明記された「村上春樹」は記号として各短編に一貫性やつながりを与えられる「特定のテーマ」であり、各短編における複数の語り手を「単数」に集約する装置だと考えられる。『一人称単数』の「一人称」は個人というレベルを超えた伝承可能な「記憶」を語り継ぐ語り手だと考えられる。

キーワード：記憶、語り手、つながり、一人称、計量テキスト分析

村上春樹『一人称単数』における語り手の「記憶」 —各短編のつながりを中心に—

葉凌

淡江大学日本語文学科 准教授

1. はじめに

村上春樹の『一人称単数』（2020年・文藝春秋）は、八つの短編を収録した短編小説集である。2000年代に入ってから村上春樹の短編小説集は、他に『神の子どもたちはみな踊る』（2000年・新潮社）、『東京奇譚集』（2005年・新潮社）、『女のいない男たち』（2014年・文藝春秋）という三冊が挙げられる。『女のいない男たち』の「まえがき」において、村上春樹は自分の短編小説の創作方法について次のように述べている。

僕は短編小説をだいたいいつも一気にまとめ書きしてしまう。
(中略)『神の子どもたちはみな踊る』も『東京奇譚集』もそういう書き方をした。だいたい二週間に一本、三ヶ月か四ヶ月で単行本一冊分というペースで書いていく。¹（下線は筆者によるものである。以下は同じ。）

一気に書き終わった「単行本一冊分」は「連作」という形で文芸雑誌に掲載されていた。「連作『地震のあとで』」というタイトルで『新潮』1999年8月号～12月号に連載された五篇が『神の子どもたちはみな踊る』に収録されている。『新潮』2005年3月号～6月号の連載短編は『東京奇譚集』になっている。そして、『女のいない男たち』の初出は『文藝春秋』2013年12月号～2014年3月号と『MONKEY』Vol.2 SPRINGである。一方、『一人称単数』の初出は下記の通りであ

¹ 村上春樹（2014）「まえがき」『女のいない男たち』文藝春秋 P6

る。

表 1 『一人称単数』の初出一覧

通し 番号	作品のタイトル	初出
1	石のまくらに	『文學界』2018年7月号 「三つの短い話」
2	クリーム	
3	チャーリー・パーカー・プレイ ズ・ボサノヴァ	
4	ウィズ・ザ・ビートルズ With the Beatles	『文學界』2019年8月号 連作短編「一人称単数」 その4と5
5	「ヤクルト・スワローズ詩集」	
6	謝肉祭 (Carnaval)	『文學界』2019年12月号 連作短編「一人称単数」 その6
7	品川猿の告白	『文學界』2020年2月号 連作短編「一人称単数」 その7
8	一人称単数	書き下ろし

表 1 から分かるように、『文學界』に掲載された七編は連載期間が20ヶ月にもわたっている。また、連載タイトルは最初の「三つの短い話」から「連作短編『一人称単数』」に変わった。この二点において、2000年代以降のほかの「連作短編」のスタイルとは異なっている。そして、短編小説の創作特徴について村上春樹は以下のように説明している。

そういう書き方をして都合の良い点は、作品のグループにそれなりの一貫性やつながりを与えられることだ。ばらばらに書

かれたものをただ集めてひとつのバスケットに詰め込むというのではなく、特定のテーマなりモチーフを設定し、コンセプトUALに作品群を並べていくことができる。『神の子どもたちはみな踊る』の場合のモチーフは「一九九五年の神戸の震災」だったし、『東京奇譚集』の場合は「都市生活者を巡る怪異譚」だった。(中略)本書のモチーフはタイトルどおり「女のいない男たち」だ。²

引用文のように、一気にまとめ書きした各短編を繋ぐ役割を果たす「特定のテーマ」が与えられているという。そして、「特定のテーマ」は雑誌連載時のタイトル、あるいは単行本の書名になっている。このように、これまでの「連作」スタイルとは異なって、タイトルが一度変わった『一人称単数』における「特定のテーマ」は、題名の「一人称」だと考えられるのであろうか。

また、プライベートのことについての言及を控えている村上春樹は、「日本では村上春樹が父親のことを直接語ったと、これも相応の反響が起こりました」³と言われるように、エッセイ『猫を棄てる 父親について語るとき』(2020年・文藝春秋)で父親との思い出を公表している。そして、それと「執筆時期は丸ごと重なって」⁴る『一人称単数』は、「八つの短編は、それぞれ意識的・意図的に作家村上春樹の事実に戦略的に重ねられて一見私小説風に仕立てあげられています」⁵と論じられたように、作者・村上春樹を想起させるエピソードが書き込まれた作品である。このように、『一人称単数』は『猫を棄てる 父親について語るとき』と同じように自伝的な作品と見做し、題名の「一人称」が作者・村上春樹だと考えられるのである

² 村上春樹(2014)「まえがき」『女のいない男たち』文藝春秋 P6-7

³ 田中実(2021)「無意識に眠る罪悪感を原点にした三つの物語—〈第三項〉論で読む村上春樹の『猫を棄てる 父親について語るとき』と『一人称単数』、あまんきみこの童話『あるひあるとき』—」『都留文科大学大学院紀要』(25) 都留文科大学 P12

⁴ 同前掲注 3、P21

⁵ 同前掲注 3、P21

うか。

以上のように、本稿は収録された各短編のつながりに注目しながら、『一人称単数』における「特定のテーマ」、および「一人称」について探るものである。

2. 「記憶」の言説

周知の通り、一人称の語りによって成り立った村上春樹の作品において、語り手が自分の過去を語る設定が多く見られる。例えば、デビュー作の『風の歌を聴け』（1979年・講談社）は語り手の「僕」が自分の大学時代について語ると構成された作品である。「記憶」という単語が2回しか出現していない『風の歌を聴け』に対して、『一人称単数』における「記憶」は49回である。各短編における「記憶」の出現回数は図1の通りである。

図1 『一人称単数』における「記憶」の出現回数

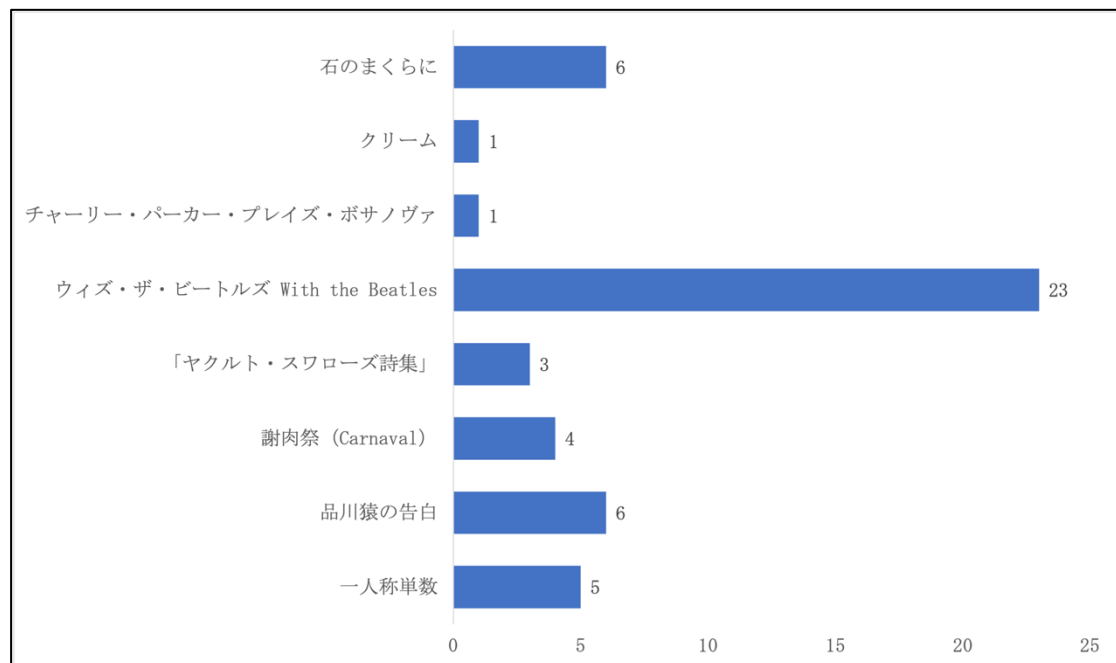


図1の通り、「記憶」は八つの短編に少なくとも1回の出現である。『一人称単数』に収録された八つの短編は全て一人称の語りによるものである。そして、いずれの短編も語り手が自分の過去の出来

事に対する回想を中心となったものである。自分の過去を語るにあたって、どのように「記憶」という単語を使うのであろうか。本節では、語る対象、及び「記憶」の出現箇所注目しながら、「記憶」の言説について考察を進める。

2.1 石のまくらに

語り手の「僕」は「ここで語ろうとしているのは、一人の女性のことだ」(P7)という。しかし、その「名前だって顔だって思い出せない」(P7)女性について、「僕」が覚えているのは、「彼女は短歌をつくっており、一冊の歌集を出版していた」(P8)ということである。しかも、「不思議なほど深く僕の心に残った」(P8)とあるように、彼女の短歌は「僕」の心に訴える。このように、彼女のことを語るというより、「僕」は彼女の短歌に響き合う自分の心を記録するのではないか。

「瞬く間に人は老いてしまう。(中略)多くのものが既に消え去っていることがわかる。(中略)あとに残されているのはささやかな記憶だけだ」(P22)とあるように、「あれから長い歳月が過ぎ去って」(P22)老いてしまった「僕」に残されたのは、彼女の短歌における「僕の心の奥に届く何かしらの要素」(P19)であろう。要するに、「僕」が記録しようとする「記憶」は、「死のイメージを追い求めていた」(P21)彼女の短歌に共鳴する自分の内面だと考えられる。

2.2 クリーム

「十八歳のときに経験した奇妙な出来事について、ぼくはある年下の友人に語っている」(P27)とあるように、語り手の「ぼく」が奇妙の経験を語るのは、年下の友人のためだと考えられる。その出来事が起きたきっかけは、「教室で顔があえば挨拶をしたが、親しく個人的な話をした記憶はない」(P29)という「女の子からピアノ演奏会への招待状を受け取った」(P28)とされている。

「ぼく」が友人に伝えようとするのは、演奏会へ行く途中に出会った、宣教をする車がいう「人はみな死にます(中略)すべての人がいつかは死を迎えます」(P35)や老人がいう「時間をかけて手間

を掛けて、そのむずかしいことを成し遂げたときにな、それがそのまま人生のクリームになる」(P42) といった「人生のいちばん大事なエッセンス」(P42) であろう。つまり、「ぼく」が伝えようとする「奇妙な出来事」＝「記憶」は、いつか死ぬ人間が生きているうちに老人のいう「中心がいくつもある円」(P40) というものの「ありようを理解し、受け容れる」(P48) という「人生のクリーム」を自分より若い世代に継承してもらおうということだと見做されよう。

2.3 チャーリー・パーカー・プレイズ・ボサノヴァ

語り手の「僕」が語るのは、学生時代に書いた「架空のレコード批評」(P53) と「おおよそ十五年後に、その文章は意外なかたちで僕のところに戻ってくる」(P59) という後日談である。実在しないレコードに出会った「僕」が「幻想の世界に迷い込んだわけではない。スーパーリアルな夢を見ているわけでもない」(P60) というように、現実と非現実とを混同するという作品構造である。

そして、「記憶」という単語に触れた場面は、「チャーリー・パーカーは僕のために、僕ひとりだけのために『コルコヴァド』を演奏してくれた」(P63) という「僕」が見た夢に出てくる。「その記憶が薄れないうちに、彼の語った一言ひとことをできる限り正確にボールペンでノートに書き留めた」(P69) という「僕」が記録しようとするのは、チャーリー・パーカーが「僕」にいう「死はもちろんいつだって唐突なものだ」(P66) や「君は私に今一度の生命を与えてくれた。そして私にボサノヴァ音楽を演奏させてくれた」(P68) ことである。こうして、チャーリー・パーカーに関する「記憶」の言説は、唐突の死と無限の可能性をひめる生という生命の両面性だと言えよう。

2.4 ウィズ・ザ・ビートルズ With the Beatles

「歳をとって奇妙に感じるのは、自分が歳をとったということではない。(中略) 僕の周りにいた美しく潑刺とした女の子たちが、今ではおそらく孫の二、三人もいるであろう年齢になっているという事実だ」(P73) とあるように、孫がいるほどの歳である語り手の「僕」

が語る内容は、「一人の女の子のことを——かつて少女であった一人の女性のことを——今でもよく覚えている。でも彼女の名前は知らない」(P74) という少女のこと、及び初めてのガールフレンドのお兄さんとの会話である。

まず、少女に言及する箇所には次のように「記憶」が使われている。

そして現実の世界でそのような感覚がうまく得られない場合には、過去におけるその感覚の記憶を、自分の内側でそっとよみがえらせたものだ。そのようにして、あるときには記憶は僕にとっての最も貴重な感情的資産のひとつとなり、生きていくためのよすがともなった。(P77)

「僕」の少女への憧れは「鈴の音」となって、「意識の、あるいは魂のずっと深い場所で、勝手に起こったり起こらなかつたりすることであり、個人の力では変更使用のない種類のものごと」(P117) とされる。「過去におけるその感覚の記憶」は魂の深い場所に存在する本当の自分を形成する「感情的資産」だと考えられる。

一方、「妙なことを訊くみたいやけど、君には記憶が途切れたことってあるか？」(P103) という唐突な質問をするガールフレンドのお兄さんと「僕」との会話において、「記憶」という言葉は 15 回使われ、記憶喪失への不安は重要な話題となっている。

ガールフレンドのお兄さんがいう「でも記憶が途切れているときのぼくがいったい何をするかなんて、そんなことぼく自身にもようわからんやないか」(P107) と少女をめぐる「記憶」の言説とを照らし合わせてみると、記憶を失うことは「感情的資産」の消滅であり、本当の自分を形成する力の喪失だと考えられる。

2.5 「ヤクルト・スワローズ詩集」

野球が好きな「僕」は、野球を中心に「僕という人間の簡潔な伝記みたい」(P127) な話をする。その中、「亡くなった」(P135) 父親、及び「記憶が次第にあやふや」(P140) になった母親への言及も含ま

れる。

「時間はあくまで同じ時間だ。一分は一分であり、一時間は一時間だ。僕らはなんといっても、それを大事に扱わなくてはならない。時間とうまく折り合いをつけ、できるだけ素敵な記憶をあとに残すこと——それが何より重要になる」(P148)とあるように、時間とともに消えていく記憶を残す重要性が語られる。

2.6 謝肉祭 (Carnaval)

語り手の「僕」が主に語る対象は、「これまで僕が知り合った中で最も醜い女性」(P153)である。「しかしそれらの記憶はあるとき、おそらくは遠く長い通路を抜けて、僕のもとを訪ねる。そして僕の心を不思議なほどの強さで揺さぶることになる」(P183)とあるように、実際に起こる出来事より記憶のほうが人の心に影響するものだと考えられる。

「私たちは誰も、多かれ少なかれ仮面をかぶって生きている。まったく仮面をかぶらずにこの熾烈な世界を生きていくことはとてもできないから」(P171)とあるように、「僕」に影響を与えた「最も醜い女性」をめぐる「記憶」の言説は、生きるためにかぶる仮面の裏に、心の内面に存在する本当の自分が隠されることだと考えられる。

2.7 品川猿の告白

「僕がその年老いた猿に出会ったのは、群馬県 M*温泉の小さな旅館だった。五年ばかり前のことだ」(P187)とあるように、語り手の「僕」が語ろうとするのは人間の言葉が話せる「品川猿」をめぐる内容である。「品川猿」は次のように恋や愛についての考えを「僕」に述べる。

愛というのは、我々がこうして生きていくために欠かすことのできない燃料であります。その愛はいつか終わるかもしれませんが。あるいはうまく結実しないかもしれませんが。しかしたとえ愛は消えても、愛がかなわなくても、自分が誰かを愛し

た、誰かに恋したという記憶をそのまま抱き続けることはできません。それもまた、我々にとっての貴重な熱源となります。

(P205)

「品川猿」の言葉からわかるように、「記憶」は人生の熱源だとされる。しかし、「そしてそうこうするうちに、その温泉町での不思議な出来事の記憶は、僕の中で少しずつ薄らいでいった。どれほど鮮やかな記憶も、時間の力にはなかなか打ち勝てないものだ」(P210)とあるように、「時間の力」に負けた「僕」は「記憶」＝人生の熱源を失いつつあるのである。

愛を求めて「再び活動を始めた」(P215)と思われる「品川猿」の行動に刺激を受け、「僕自身もいつかそれを試してみることになるかもしれない——眠れぬ夜なんかに、思いもよらずそんなとりとめもない考えを抱いてしまうこともある」(P215)とあるように、「記憶」＝人生の熱源を取り戻そうとする「僕」の意向が見られる。

2.8 一人称単数

語り手の「私」が語るのは、「三年前に、どこかの水辺で合ったことを。そこでご自分がどんなひどいことを、おぞましいことをなされたかを。恥を知らなさい」(P232)と言ってきた、会ったことのないと思われる女性を中心とする内容である。

その女性が言ったことについて、「私」は以下のように語る。

三年前に私はどこかのまとまった水のそばにいただろうか？
記憶は辿れなかった。三年前というのがいったいいつのことなのか、それさえうまく把握できなかった。彼女が私に向かって口にしたことは、すべて具体的でありながら、同時にきわめて象徴的だった。(P233-234)

引用文のように、「私」には「三年前」のことに対する記憶が不在だと説明する。女性の人違いという風にする一方、「私」は次のよう

に自分が「おぞましいこと」をした可能性を考える。

私はたぶん怖れていたのだと思う。実際の私ではない私が、三年前に「どこかの水辺」で、ある女性——おそらくは私の知らない誰か——に対してなしたおぞましい行為の内容が明らかになることを。そしてまた、私の中にある私自身のあずかり知らない何かが、彼女によって目に見える場所に引きずり出されるかもしれないことを。(P233)

以上のように、「私」は「自分ではない自分」の存在を考えながら、その「自分」が「おぞましい行為」をした可能性を否定していない。さらに言えば、「内容が明らかになること」＝「記憶が辿れること」は、その「自分」の出現に繋がると考えられる。また、「自分ではない自分」について、「私」は以下のように語る。

そのとき私はふとこのような感覚に襲われた——私はどこかで人生の回路を取り違えてしまったのかもしれない。そしてスーツを着てネクタイを結んだ自分の姿を見つめているうちに、その感覚はますます強いものになっていった。見れば見るほどそれは私自身ではなく、見覚えのないよその誰かのように思えてきた。しかしそこに映っているのは——もしそれが私自身でないとすれば——いったい誰なのだろう？ (P225)

普段スーツを着ない「私」は自分のスーツ姿を鏡で確認したら、あらかじめ「自分ではない自分」が存在する可能性を提示するのではないか。「一人称単数」における「記憶」の言説は自分の内面に存在する、自分でも意識しきれない「私自身のあずかり知らない何か」＝「本当の自分」の存在だと見做されよう。

2.9 まとめ

以上の考察を整理し、『一人称単数』に収録された八つの短編おけ

る「記憶」の言説をまとめよう。

「石のまくらに」の「記憶」は「死のイメージ」がする女性の短歌に共鳴する「僕」の内面である。「クリーム」で「ぼく」が若い世代に言い伝える「記憶」は死が訪れていないうちに「中心がいくつもある円」を受け入れることである。「チャーリー・パーカー・プレイズ・ボサノヴァ」の「記憶」は生命に存在する、唐突の死と無限の可能性を秘めた生という両面性である。「ウィズ・ザ・ビートルズ With the Beatles」の「僕」が語ろうとする「記憶」は自分を形成する力の消滅についての可能性である。「ヤクルト・スワローズ詩集」の「僕」は時間とともに消える記憶の重要性について説明する。「謝肉祭 (Carnaval)」の「記憶」は心の内面に存在する本当の自分をめぐる言説である。「品川猿の告白」における「僕」の記憶は「人生の熱源」を取り戻した体験である。「一人称単数」の「記憶」は心の内面に存在する「本当の自分」についての考えである。

そして、『一人称単数』における各短編の連載タイトルと「記憶」の言説を表2のように整理する。

表2 各短編の連載タイトルと「記憶」の言説

通し 番号	作品名	連載 タイトル	「記憶」の言説
1	石のまくらに	「三つの短 い話」	死のイメージに共鳴する 自分の内面
2	クリーム		死ぬまでに「円」を受け入 れること
3	チャーリー・パー カー・プレイズ・ ボサノヴァ		唐突の死と可能性を秘め た生という生命の両面性
4	ウィズ・ザ・ビー トルズ With the	連作短編「一 人称単数」そ	自分を形成する力の消滅

	Beatles	の 4 と 5	
5	「ヤクルト・スワローズ詩集」		時間とともに消える記憶
6	謝肉祭 (Carnaval)	連作短編「一人称単数」その 6	心の内面に隠された本当の自分
7	品川猿の告白	連作短編「一人称単数」その 7	生きていくための熱源
8	一人称単数	書き下ろし	心の内面に存在する本当の自分

表 2 から分かるように、「三つの短い話」に「死」という共通項が際立っている。そして、「連作短編「一人称単数」」において、記憶と自分の内面との関係性が共通している。こうして、雑誌連載タイトルの変化とともに変わった「記憶」の言説は、村上春樹がいう作品のグループに一貫性やつながりを与えられる「特定のテーマ」だと考えにくいであろう。

3. 各短編のつながり

前節では各短編における「記憶」の言説を考察した。本節では計量テキスト分析を通して、各短編の相互関係を究明する。なぜ計量テキスト分析を使用するかというと、統計学をベースにした分析結果は研究者の主観的な判断に左右されないからである。実際に使用するのは計量テキスト分析ソフトウェアの KH Coder である。それは KH Coder が単に語彙の出現頻度を統計するものにとどまらず、語彙の間にある相互関係を「共起ネットワーク」で可視化するものだからである。

KH Coder が使っている計量テキスト分析は、統計的自然言語処理という第二世代の AI 技術をベースにしたソフトである。入力した

テキストにおける全ての語彙を抽出し統計・解析することによって、語彙と語彙との間にある客観的な関係性を示すものである。そして、KH Coder を使うメリットとして、その関係性は数値で表記されるのではなく、統計学を系統的に勉強したことがなくても直感的に理解できる「共起ネットワーク」という図で表れている。さらに、章を「外部変数」と設定すると、章と章との間に関係性の高い語彙は示される。

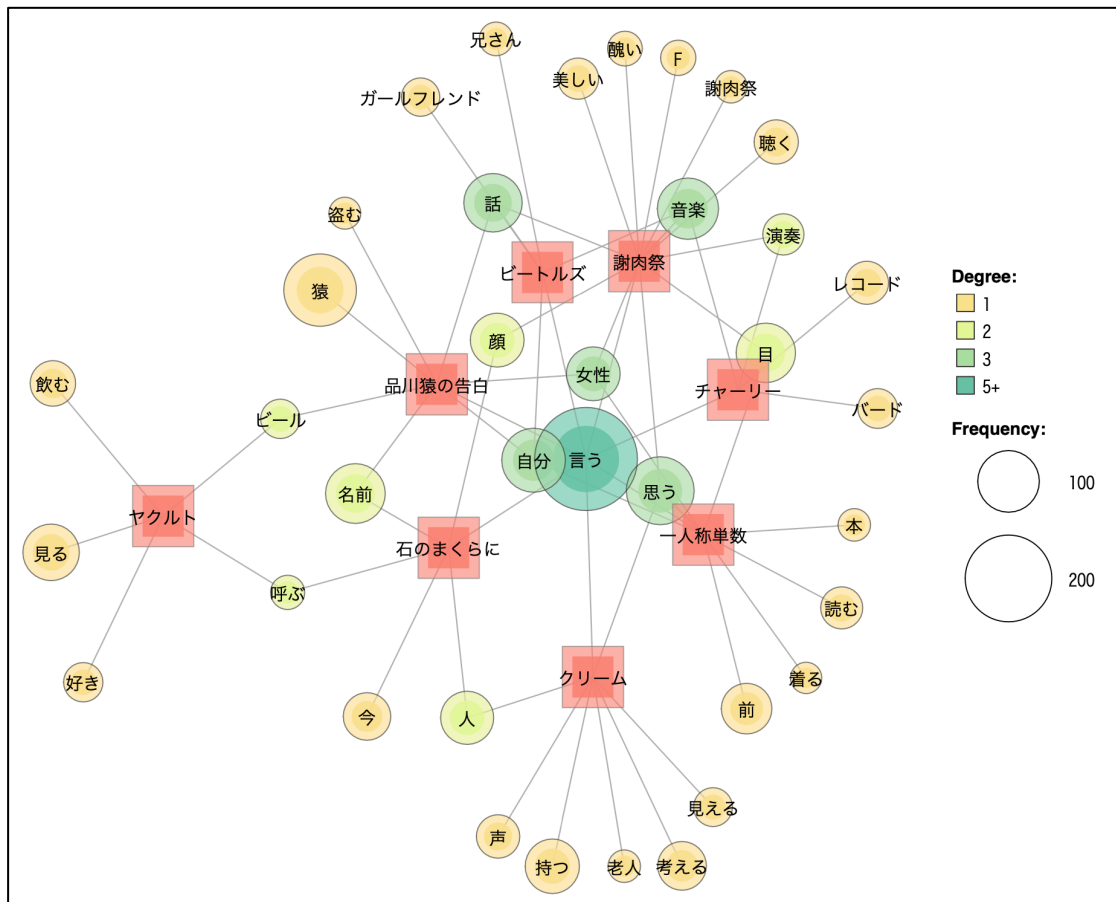
『一人称単数』が短編小説集のゆえ、各短編を「外部変数」と設定することにした⁶。こうして、KH Coder による共起ネットワークは次の図 2 の通りである。

図 2 の「Degree」からわかるように、「言う」という単語は五つ以上の短編に共通している。そして、「自分」、「思う」、「女性」、「音楽」、「話」は三つの短編に共通する単語である。各短編の間に関連性の高い単語をまとめてみると、『一人称単数』は一人称の語り手が「女性や音楽に関する自分が思う話を言う」作品だと解釈されよう。

確かに、「石のまくらに」、「ウィズ・ザ・ビートルズ With the Beatles」、「謝肉祭 (Carnaval)」、「品川猿の告白」、「一人称単数」には「女性」をめぐる話題が散見されている。そして、「クリーム」、「チャーリー・パーカー・プレイズ・ボサノヴァ」、「ウィズ・ザ・ビートルズ With the Beatles」、「謝肉祭 (Carnaval)」は「音楽」に関わる作品である。

⁶ 短編のタイトルが長い場合、キーワードで表記している。

図2 『一人称単数』における各短編の共起ネットワーク



一方、「ヤクルト・スワローズ詩集」に注目して図2を見ると、次の三点が分かる。まず、七つの短編に共通する「言う」は「ヤクルト・スワローズ詩集」以外の七つの短編に共通する単語である。次に、「自分」、「思う」、「女性」、「音楽」、「話」といった、三つの短編に共通する単語は、いずれも「ヤクルト・スワローズ詩集」に関連していない。最後に、二つの短編に共通する七つの単語の中で「ヤクルト・スワローズ詩集」は「呼ぶ」、「ビール」で他の短編と繋がっている。

こうして、図2で示した計量分析の結果は一見して作品の基本設定に大差を表していない。一方、「女性や音楽に関する自分が思う話」ではない「ヤクルト・スワローズ詩集」が他な七つの短編との相違点は浮上してきた。言い換えれば、『一人称単数』を「それなりの一貫性やつながりを与えられる」短編小説集と見做す場合、「ヤク

ルト・スワローズ詩集」と他の短編とのつながりは単語の共起関係を越えたものだと考えられよう。

「一九六八年、この年に村上春樹がサンケイ・アトムズのファンになった」(P129)、「全部にきちんとサインペンで署名した。村上春樹、村上春樹、村上春樹...」(P135)とあるように、「ヤクルト・スワローズ詩集」には「村上春樹」という固有名詞が見られる。また、次の箇所は、語り手の「僕」と実在した作家の村上春樹との関係に触れている。

僕はやはり二十九歳にして初めて小説らしきものを書き上げた。『風の歌を聴け』という作品で、それは『群像』の新人賞をとり、僕はそのときからとりあえず小説家と呼ばれるようになった。(P130-131)

引用文のように、「ヤクルト・スワローズ詩集」の語り手「僕」は『一人称単数』の作者・村上春樹であることが明示されている。確かに、文学部在籍の「石のまくらに」の「僕」、浪人生を経験した「クリーム」の「ぼく」、「音楽」の知識を大量に書き込まれた「チャーリー・パーカー・プレイズ・ボサノヴァ」、「ウィズ・ザ・ビートルズ With the Beatles」、「謝肉祭 (Carnaval)」、編集者と仕事をすする「品川猿の告白」の「僕」、中華料理に苦手な「一人称単数」の「私」といった設定は、全て実在した村上春樹という作家に結びつくものである。しかし、いずれも「ヤクルト・スワローズ詩集」ほど「村上春樹」は作品の表に現前していない。

計量分析の結果が示したように、「ヤクルト・スワローズ詩集」は他の七つの短編との関係性は強くないことが分かる。また、他の七つの短編とは違って「村上春樹」を明記したように、「ヤクルト・スワローズ詩集」は『一人称単数』において異質の一編として浮上していると考えられる。

4. 「一人称」という語り

前述したように、『一人称単数』は「語り手＝作者・村上春樹」という私小説的な読み方が可能な作品である。作中の村上春樹を想起させるエピソードは作者である村上春樹の個人的な「過去」の記録とも読者に読まれている⁷。「齢を取ってきたことを自覚した作家によくある、人生を振り返る『回想モード』に入ったということかもしれない⁸と言われるように、2020年に70歳を超えた村上春樹が、創作の要素として自分の過去を世間に晒し出すのは十分に考えられることであろう。

一方、「ヤクルト・スワローズ詩集」に触れられた『ヤクルト・スワローズ』という作品について山根明敏は以下のように論じている。

「ヤクルト・スワローズ詩集」は実在しないと考えられる「ヤクルト・スワローズ詩集」を出版したという、架空の要素が混入されているため、エッセイとも私小説とも言い難い作品となっている。⁹

山根氏の論点によると、『ヤクルト・スワローズ』という実際に出版されていない作品の存在を語るという架空の設定があるため、『一人称単数』は私小説という観点で解読しがたい作品である。さらに言えば、「ヤクルト・スワローズ詩集」における『ヤクルト・スワローズ』はフィクションだと見做されよう。

村上春樹は『村上さんのところ』¹⁰の「2015-02-05 詩は書きます

⁷ 例えば、読者が自分の読書感想を投稿できる、「読書メーター」というウェブサイト「私小説風の短編集」(2021/09/09 aoの投稿)、「春樹氏が過去の抽斗から見つけたものを綴った私小説集なのか？」(2021/09/01 まあちんの投稿)という記事がある。(https://bookmeter.com/books/16082299?page=4) 2022年2月21日閲覧。

⁸ 沼野充義(2021)「偶然の織り成す運命の物語—村上春樹『一人称単数』『猫を棄てる』における回想と虚構の交錯—」曾秋桂編『村上春樹研究叢書 TC008 村上春樹における運命』淡江大学出版中心 P2

⁹ 山根明敏(2021)「村上春樹『一人称単数』と私小説との距離 —「クリーム」「ウィズ・ザ・ビートルズ」「ヤクルト・スワローズ詩集」「一人称単数」を読む」『Mukogawa Literary Review』(58)武庫川女子大学 P6

¹⁰ 2015年1月15日から5月13日まで公開された期間限定公式サイトで募集

か？」で以下のように『ヤクルト・スワローズ詩集』に触れている。

僕は『ヤクルト・スワローズ詩集』という短編小説（みたいなもの）を書いておりまして、その中に僕の書いた詩（のようなもの）がいくつか引用されています。そのうちの一部は「ヤクルト・スワローズ・ファンクラブ」のファン・サイトに掲載されていますが、フルバージョンは未発表です。¹¹

引用文のように、村上春樹は『ヤクルト・スワローズ詩集』をフルバージョン未発表の短編小説みたいなものとしている。また、「2015-02-13 これはまだ未発表ですけど」で村上春樹は再び『ヤクルト・スワローズ詩集』に触れている。

詳しい経緯は僕の短編小説『ヤクルト・スワローズ詩集（完全版）』を読んでください。あ、これはまだ未発表なんだ。すいません。そのうちにどこかに出します。¹²

『村上さんのところ』において、短編小説『ヤクルト・スワローズ詩集』の完全版が発表されていないという点について一致している。また、同じく2015年に刊行された紀行集『ラオスにいったい何があるというんですか？』で以下のように『ヤクルト・スワローズ詩集』に触れている。

僕はこの夜、『ヤクルト・スワローズ詩集』という短編小説（みたいなもの）を朗読した。この作品の一部は「ヤクルトスワローズ・ファンクラブ」の会報に掲載したんだけど、全文をきちんと人前に出すのはこの夜が初めてで、いちおう「本邦初公開」

した村上春樹への質問や村上春樹の回答をまとめた作品である。

¹¹ 村上春樹（2015）『村上さんのところ コンプリート版』新潮社・電子書籍版

¹² 同前掲注 11

ということになった。¹³

『村上さんのところ』と同じように、短編小説『ヤクルト・スワローズ詩集』として全文は公表されていないとされている。つまり、2015年という時点で村上春樹は出版されていない『ヤクルト・スワローズ詩集』の存在を公然と述べている。

また、『村上さんのところ』の「2015-02-05 詩は書きますか？」で言及された東京ヤクルトスワローズの公式 HP にある「名誉会員」では、「村上春樹さん」¹⁴という項目が見られる。2014年に掲載された「名誉会員・村上春樹さんメッセージ」の「第2回：「ヤクルト・スワローズ詩集」より」は『一人称単数』の「「ヤクルト・スワローズ詩集」」に一部が重なっている。つまり、「第2回：「ヤクルト・スワローズ詩集」より」は「完全版」の『ヤクルト・スワローズ詩集』から抜粋されたものだと言えよう。

一方、『一人称単数』において『ヤクルト・スワローズ詩集』の出版は以下のようにされている。

僕はこれを取りあえず詩と呼ぶことにした。そしてそれらを集めて、『ヤクルト・スワローズ詩集』として刊行することにした。（中略）それが一九八二年のことだ。（中略）半ば自費出版
というかたちで出すことにした。（P134-135）

下線部のように、自費出版のかたちで1982年に『ヤクルト・スワローズ詩集』が刊行されたという。これは明らかに2015年に村上春樹が述べた内容と異なっている。また、「もちろんこの詩はオリジナルの『ヤクルト・スワローズ詩集』には収録されていない。その詩

¹³ 村上春樹（2018）『ラオスにいったい何があるというんですか？』文藝春秋・電子書籍版

¹⁴ 東京ヤクルトスワローズの公式 HP（https://www.yakult-swallows.co.jp/pages/fanclub/honorary_member/murakami）2022年2月21日閲覧

集が出版されたあと、ずいぶん経ってから書かれたものだ」(P145)とあるように、『一人称単数』において『ヤクルト・スワローズ詩集』は「詩集」とされている。

そして、『夢で会いましょう』(1981年・冬樹社。1986年に講談社により文庫化)に「*「ヤクルト・スワローズ詩集」」と表記した「オイル・サーディン」¹⁵、「*「ヤクルト・スワローズ詩集」より」と表記した「スクイズ」¹⁶、「スター・ウォーズ」¹⁷、「チャーリー・マニエル」¹⁸、「ビール」¹⁹といった詩に近い短文が見られる。しかし、いずれも『一人称単数』に収録された「ヤクルト・スワローズ詩集」に見当たらない。

以上をまとめてみると、2015年に村上春樹が述べた、短編小説みtainな完全版の『ヤクルト・スワローズ詩集』は『一人称単数』に収録された「ヤクルト・スワローズ詩集」に近いものではなかろうか。そして、「ヤクルト・スワローズ詩集」における、1982年に出版したとされた『ヤクルト・スワローズ詩集』は、「ヤクルト・スワローズ詩集」に登場した虚構の作品だと見做されよう。

「石のまくらに」の「短歌」、「チャーリー・パーカー・プレイズ・ボサノヴァ」の「レコード記事」、「ヤクルト・スワローズ詩集」の『ヤクルト・スワローズ詩集』などの『一人称単数』に登場した作品について、沼野充義は以下のように論じている。

その中に挿入された「作品内作品」も実在してもおかしくないものとして作品世界の一部を成し、自伝的事実とフィクションの間の微妙な関係が展開することになる。²⁰

沼野氏が示唆したように、ありそうで実在していない「作品内作

¹⁵ 村上春樹・糸井重里(1986)『夢で会いましょう』講談社文庫 P45

¹⁶ 同前掲注 15、P104

¹⁷ 同前掲注 15、P106

¹⁸ 同前掲注 15、P129

¹⁹ 同前掲注 15、P167

²⁰ 同前掲注 8、P30

品」は『一人称単数』という小説＝フィクションに自伝的な性格をもたらした。こうして、「ヤクルト・スワローズ詩集」における「語り手「僕」＝作者・村上春樹」はフィクションに「自伝的な事実」を与える設定だと考えられる。「作品内作品」、及び作者・村上春樹を想起させる人物設定は、「自伝的事実とフィクションの間の微妙な関係」を作る設定である一方、八つの短編における語り手に共通性をもたらしたのではないか。さらに言えば、『一人称単数』の八つの短編を繋ぐのは「村上春樹」という記号だと言えよう。

前述したように、村上春樹の短編小説集に各短編を繋ぐ「特定のテーマ」が存在している。『神の子どもたちはみな踊る』の「一九九五年の神戸の震災」、『東京奇譚集』の「都市生活者を巡る怪異譚」と同じように、『一人称単数』において記号としての「村上春樹」は各短編に一貫性やつながりを与えられる「特定のテーマ」だと見做されよう。

一方、一人称の過去への回想は村上春樹作品によく見られる創作要素である。しかし、『一人称単数』における一人称について、沼野充義は次のように述べている。

そして今私たちが目撃している一人称は、当然なことながら、初期の一人称への単純な回帰ではない。それは一人称の語りを通じて、自伝的回想の枠を作りながら、そこに自由に虚構をはめこみ、回想と虚構を交錯させる手法になっている。²¹

各短編の語り手は全て一人称であるが、「僕」、「ぼく」、「私」に分けている。こうして、『一人称単数』における複数の語り手は決して「単数」とは言えない。沼野氏が論じたように、これまでの作品と比べて、『一人称単数』の「一人称」には「村上春樹」という「自伝的回想の枠」が強調されている。こうして、「村上春樹」は各短編に

²¹ 沼野充義(2020)「偶然に織り成された唯一の『私』—村上春樹『一人称単数』における回想と虚構の交錯—」『文學界』74(9)文藝春秋 P196

つながりを与える記号であると同時に、各短編における複数の語り手を一人に集約し集合体としての「単数」にする装置でもあると言えよう。

周知の通り、『風の歌を聴け』、『ノルウェイの森』、『国境の南、太陽の西』などにおいて、語り手が語ろうとするのは特定の女性に関わる記憶を中心とするものである。それに対して、「現時点からの過去を回想しつつ、当時の自身の行為や考えを意味づけようとする叙述が少なからず確認される」²²と論じられているように、『一人称単数』において語り手は「記憶」を通して現時点の自分と当時の自分との相対化をすと言えよう。

こうして、「単数」になった「一人称」という語りをもたらした「記憶」は、「自分の過去」というレベルに止まらず、若い世代に伝承可能な「感情的資産」だと考えられる。

5. おわりに

『一人称単数』は同時期に執筆する『猫を棄てる 父親について語る時』と同じように、作者・村上春樹の自伝的な作品という色彩が濃い作品である。しかし、『猫を棄てる 父親について語る時』における作者・村上春樹の父親への記憶と異なって、『一人称単数』における「記憶」は、各短編の語り手に集約された「単数」の言説だと考えられる。複数の語り手が「単数」としての「一人称」に集約されたのは各短編を繋ぐ「特定のテーマ」である「村上春樹」という記号によるものだと見做される。

デビュー作の『風の歌を聴け』から村上春樹の作品に作者を連想させる設定が多く見られる。しかし、『一人称単数』において現前された作者・村上春樹は各短編に一貫性やつながりを与えられた記号だと考えられる。これまでの作品とは異なった『一人称単数』の「一

²² 黄如萍(2021)『『運命』としての『ウィズ・ザ・ビートルズ With the Beatles』論—摂取の関係と共に—』曾秋桂編『村上春樹研究叢書 TC008 村上春樹における運命』淡江大學出版中心 P340

人称」は個人というレベルを超えた伝承可能な「記憶」を語り継ぐ語り手だと言えよう。

<付記>

本論文は、2021年12月11日に開催された「2021年度台湾日本語文学会国際シンポジウム」での口頭発表「村上春樹文学における記憶」を元に加筆・修正したものである。

テキスト

村上春樹（2020）『一人称単数』文藝春秋

参考文献

曾秋桂編（2021）『村上春樹研究叢書 TC008 村上春樹における運命』淡江大學出版中心

田中実（2021）「無意識に眠る罪悪感を原点にした三つの物語—〈第三項〉論で読む村上春樹の『猫を棄てる 父親について語る時』と『一人称単数』、あまんきみこの童話『あるひあるとき』—」『都留文科大学大学院紀要』（25）都留文科大学

東京ヤクルトスワローズの公式 HP（2022年2月21日閲覧）

[https://www.yakult-](https://www.yakult-swallows.co.jp/pages/fanclub/honorary_member/murakami)

[swallows.co.jp/pages/fanclub/honorary_member/murakami](https://www.yakult-swallows.co.jp/pages/fanclub/honorary_member/murakami)

読書メーター（2022年2月21日閲覧）

<https://bookmeter.com/books/16082299>

沼野充義（2020）「偶然に織り成された唯一の『私』—村上春樹『一人称単数』における回想と虚構の交錯—」『文學界』74(9)文藝春秋

村上春樹・糸井重里（1986）『夢で会いましょう』講談社文庫

村上春樹（2014）『女のいない男たち』文藝春秋

村上春樹（2015）『村上さんのところ コンプリート版』新潮社・電子書籍版

村上春樹（2018）『ラオスにいったい何があるというんですか？』文藝春秋・電子書籍版

山根明敏（2021）「村上春樹『一人称単数』と私小説との距離 — 「クリーム」「ウィズ・ザ・ビートルズ」「ヤクルト・スワローズ詩集」「一人称単数」を読む」『Mukogawa Literary Review』(58)武庫川女子大学